第 16 号　　佐々木敦也の経済千思万考

【人口知能:未来の人間の敵か味方か？】 2015.3.30

「人の言葉を理解する米IBMの認知型コンピューター「ワトソン」。米国生まれで母国語は英語だが猛勉強によって日本語を習得し、三井住友銀行から「内定」を得た。クイズ番組に興じていたワトソン君が、年内にも銀行マンとして日本で働き始める。
三井住友銀行はコールセンターでの問い合わせ対応にワトソンを活用する
「ATMの手数料を知りたいのですが」。銀行のコールセンターには日々、あいまいな質問が寄せられる。引き出しの手数料か振り込みのことか。キャッシュカードは自行と他行どちらのものか。あるいは他行のATMを使う場合か。条件によって答えは変わる。
こうしたあいまいな質問にすらすらと答える次世代型のコールセンターが近々誕生する。三井住友銀がオペレーターの応対業務にIBMのワトソンを導入するのだ。
ワトソンは利用者が入力した文章を自然言語処理の技術で解釈し、ビッグデータ分析などの技術によって質問の答えを導き出す。三井住友銀のオペレーターが顧客から受けた質問をキーボードで入力すると、ワトソンは5つの回答候補を瞬時に出す。回答は確からしい順に、その確率を付けて表示する。オペレーターは候補と確率を参考に、顧客に応答する。」
（2015 年 3 月 20 日付日本経済新聞）

IBMが 2011 年に開発した「学習するコンピューター」と呼ばれるワトソンは、話し言葉による自然な文章を理解し、膨大なデータベースから瞬時に最適な答えを導き出す能力を持つ。米国の人気クイズ番組「ジョパディ!」（Jeopardy!）」で、人間のチャンピオンに勝ったことで一躍有名になった。これは 1997 年に、当時のチェス世界チャンピオンのガルリ・カスパロフに勝利した IBM のコンピュータ・システムであるディープ・ブルーに次ぐプロジェクトである。クイズ番組では自然言語で問われた質問を理解して、文脈を含めて質問の趣旨を理解し、人工知能として大量の情報の中から適切な回答を選択し、回答する必要がある。IBM はこの技術を、将来的には医療、オンラインのヘルプデスク、コールセンターでの顧客サービスなどに活用できるとしている。

人口知能のビジネス社会での活躍がいよいよ本格化しようとしている。人工知能やロボットが普及することで今後、ヒトの物理的な仕事はどんどんなくなるといわれている。
「スマホ＋クラウド時代から、「IoT（モノのインターネット）＋人工知能」の次のパラダイム移行が

掲載されている情報は、投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。また、紹介する個別銘柄の売買を勧誘・推奨するものではありません。投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。このレポートの一部または全部を事前の承諾なしに引用、複製すること、及び形態の如何、加工の有無に問わず、第三者に提供することを禁じます。

始まると専門家は指摘する。そして、あらゆるアプリやサービスは、バックエンドで人工知能につながるようになり、監視カメラや無人自動車、農業、流通、広告、医療、会計、介護、通訳、教育など、今後の人工知能の発達に合わせて、多くの業界が影響を受けていくと見られているのだ。

先だって、NHKでも放映されたが、将棋の羽生善治名人と伝説のチェスプレイヤーガルリ・カスパロフ氏（ディープ・ブルーに敗戦）によるチェス対局が話題を呼んだ。二人の天才の勝負はカスパロフ氏の勝利で終わったが、興味深かったのが、人工知能への見方。カスパロフ氏は未来において人工知能は人間の頼もしいパートナーとしてその存在を前向きに捉えていた。しかし、例えばある事象Aに対し40%、もう一つの事象Bに対し60%という評価がある中で人工知能は当然事象Bを選択するが、人間は事象Aに対してその意味や重要性を見い出すことができる、そこが人工知能にできない人間の知恵がある、といっていた。

人工知能の発達は、コンピューター将棋の例がある。膨大な棋譜を分析し、相手の思考を読み、次の一手を考える将棋はまさに論理的な知性の象徴。そのゴールは見えてきたので、次はさらに難しい『感性』の部分にアプローチするプロジェクトが始まっているという。それは、人間の小説も、これまでに書かれた文章を無意識に組み合わせて作られている部分があり、その組み合わせ方が新しければ、それは創作と言えると想定し、成功すれば人間の専売特許とみられていた感性やひらめき、クリエイティブな表現まで人工知能が扱えるようになると専門家はいう。カスパロフ氏の見方に挑戦する動きだ。

さらに世界では「人間の脳」をつくりだすプロジェクト、すなわちアメリカでは米国国防高等研究計画局の『シナプス計画』、ヨーロッパでは『ヒューマンブレインプロジェクト』として、それぞれ巨費を投じた研究開発が行われている。脳のシナプスとニューロンの仕組みをスーパーコンピュータで再現するもので、あと 2～3 年で人の脳と同等レベルのデータ処理能力に達する見込みである。それは人の“脳”を模倣することで、自ら考えるコンピュータができるかもしれないということだ。

あくまで人間は人工知能を道具として使うべきとする専門家も多く、人間のパートナーとしての是非についての判断は分かれている。確かに、人工知能と人間との付き合い方は今からもよく考えていた方がよさそうだ。人工知能を使いこなすのか、使われるのか？一歩間違えると人間の敵か味方かというSF映画の世界が現実化しかねないのだから。

以上

掲載されている情報は、投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。また、紹介する個別銘柄の売買を勧誘・推奨するものではありません。投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。このレポートの一部または全部を事前の承諾なしに引用、複製すること、及び形態の如何、加工の有無に問わず、第三者に提供することを禁じます。

ディスクレーマー(免責条項)

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権は、佐々木敦也及び株式会社アイロゴス(以下「アイロゴス」という)帰属し、事前にアイロゴスへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。アイロゴスが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少する事もあり、価値を失う場合があります。本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大する事を保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、アイロゴスは、理由の如何を問わず、責任を負いません。投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。以上の点をご了承の上、ご利用ください。

掲載されている情報は、投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。また、紹介する個別銘柄の売買を勧誘・推奨するものではありません。投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。このレポートの一部または全部を事前の承諾なしに引用、複製すること、及び形態の如何、加工の有無に問わず、第三者に提供することを禁じます。